

平等寺だより

永平寺へ再安居

住職 丸子 孝法



「月参りをしていると、皆さんが方丈さんのことを誇りに思いつつも大変な日々をお過ごしであろうと心配しています。そこでぜひ方丈さんに本山でのおつとめを檀信徒に伝えてほしいと思います」―若方丈からこんなメールが入りました。昨年六月二十八日大本山

四十二年前の春、手甲・脚絆に網代笠をかぶり永平

発行

☎633-0001
桜井市三輪38
三輪山平等寺
TEL/FAX
0744-42-6033
<http://www.byodoji.com/>

寺に向かいました。「いつて参ります」というと、師匠のまぶたにすつと涙が流れていました。五年間の修行をさせて頂きたいと師匠にお願いをして永平寺に向いました。ところが一年もせずして師匠が癌の病にいたおられ看病のために寺に戻ることになりました。看病の最中師匠に喜んでもらおうと思い蒲団の裏地の木綿の布でお袈裟を縫いしました。最後の一针を師匠にかえていただき、その本がえしのお袈裟ができあがりましたが、師匠に三つの約束をしてくれといわれたのです。一つ目は二足の草鞋をはく、二つ目は墓はお寺の中に建ててほしい、三つ目が托鉢をしてでも本堂を建ててくれという内容でした。この三つ目の約束が私の托鉢人生のはじまり



となり、師匠が遷化して十六年間つぎました。師匠の十七回忌に本堂や諸堂が完成し、永平寺の丹羽廉芳禅師さまが落慶報恩法要をおつとめ下さったのです。NHKが全国放映して下さったことも十万人の寄進者の皆さまにご報告申しあげる事ができ、まことに有難い限りでありました。

更に十七年後、師匠の十三回忌の折に、釈迦堂二重塔が立派に再建されました。この度、大本山永平寺の副監院という大役を拝名しましたが、私にしますと正に再安居（修行のやりなおし）であります。毎朝三時に起床し、暁天中光拝といつて禅師さまご名代の説教か



らはじまり、坐禅、朝課、日中の行持、全国から参籠された方々への坐禅や法話、さまざまな法要の導師等々思いもしない内容の再安居であります。

ふりかえってみると、共に苦勞を重ねてきた家内や若方丈、寛仁、道仁、慶仁、寺族のみんなの応援があり、「方丈さんのことを誇りに思いつつも大変な日々をお過ごしであらうと心配しています」という檀信徒の皆さまのあたたかいお心に、おまもりいただいた、勤めさせて頂けるのであります。

大本山永平寺は、世界中から禅の道に触れたいという方々が参拝されます。坐禅は一宗一派にかかわらず世界中の人々が

注目しています。東京大学の平井富雄先生が「坐禅における脳波学的研究」を発表され、坐禅をする」と誰でも脳波が調うことが発表されました。また今日、東邦大学の有田秀穂先生の研究結果、坐禅をすると、セロトニンという脳の神経作用を安定させる脳内神経が発達するということが解明されました。

「三界は皆苦なり、われまさにこれを安んず」といわれたのはお釈迦さまですが、その安らぎの根本となる坐禅が、今世界中の人々に注目されています。永平寺の福山諦法禅師さまは、常日頃から「流汗悟道、汗を流して道を悟る」と、実践修行の修行の大切さを説かれます。大本山永平寺副監院の重職も四六時中修行であります。永平寺の宝は生きた仏さま・修行僧であります。尊い禅師さまのもと、再安居させていただくことも難値難偶ありがたい法縁であります。

年頭にあたり皆さまのご清福ご安寧をご祈念申

しあげ、ご挨拶といたします。

亡母を想う

白石 知子

平等寺にご縁を頂いて五十年余りが過ぎました。昭和十六年の頃、私たちの家族は父の仕事の関係で台湾で過ごす事になりました。異国での生活が始まり、父は海軍へ召集され、全く何も分らぬ土地での生活が母の肩に大ききのしかかり、食料不足のために、なれない畑仕事と苦難の日々が続きました。

四年後位に終戦となり、父が無事に家族の元に帰宅する事が出来たことは嬉しい思い出でした。その後、無事に日本に帰国する事が出来ました。内地での生活は苦しく、母は人間関係等で色々と心労が重なり体調をこわし、喘息の発作が出る様になりました。現在の様に医学も十分でない時代でしたので、転地療養が良かったので、広島秋正方丈様（先代住職）ご夫妻の温かいお心で母と私を

受け入れて頂き、初秋より十二月までお寺で過ごさせて頂きました。

その間、般若心経を唱え、又、お滝の行等をお導き頂き、家族を離れる生活ではありましたが、お陰様で日々体調も良くなり、静かに心やすらぐこととなりました。

私も当時、高校在学中でしたが、毎日、お寺から大阪の学校に通い皆様に娘のように可愛がっていただき尊い思い出になっています。

過日、お誘いを頂き友人三人で京都祇園をどりを観に行きました。観終わった後に車で八瀬に向



かう途中、私の結婚の時に、母と呉服を買いに京都へ行った時の事を思い出しました。車窓から見渡す風景を眺めていると、母が私の心の中に生きている想いがしました。

平等寺に伺いまして納骨堂に入りますと、亡き主人と両家の両親に会える様に想います。有難く色々と感じます。有難く色々と感じます。方丈様には永平寺でのお役、お身体には十分お気をつけられ過ぎられますよう祈っています。

梅花講だより

梅花講とのご縁

亀本 秀子



亡き主人は生前、方丈様の人の心を打つお話や人柄の偉大さに、心から尊敬しておりました。私も主人の意志を尊重し、迷わず檀家に加えていただきました。

当時、これからの生き方を模索し、心の糧になるもの、何か新しい事に挑戦しようと思っておりました折、方丈様より梅花講にお誘いいただき、思い切って何の考えもなく白紙の状態で入講いたしました。こんな難しい御詠歌、とても私には無理だと思いました。数年過ぎた今も、なかなか上達しないことに落ち込むことも……。それでも奥様や講員の方々の温かいお心で指導いただき、皆様の後ろを歩いていけるように稽古に励み、精進したいと思っております。特に、今年から道仁さんに文字どおり手取り足取り、懇切丁寧にお教えたいただきました。私にとっては、これからの進むべき道に、少し明りが見えてきた気がいたします。月に一度のお稽古を終え

て家路に着く時には、清らかな得がたい充実感に満たされ、この上ない幸せを感じております。お仲間の皆さまと会えるのも嬉しく、よき友達・人との繋がりを得ることができました。有難いことだと思っております。



6月26日、住職永平寺に出発の朝、

野村様と

長寿の秘訣

丸子 孝仁

私がまだ幼稚園の頃、中谷のおじさんの大きな背中や梅花講の二瓶さんや平田さんにおんぶしてもらったことを覚えています。野村のおばあさんは、お正月に七厘で大好物のお餅を焼い

てくれました。まだ本堂が建つ前のあの頃は、私達兄弟の服は近所のおさがりで、雨が降りますとデコボコの屋根から六ヶ所くらい雨漏りがしますので皆でバケツやら桶やらを運びました。両親は托鉢と本堂再建で忙しいので、なかなか買物にも行けず、靴が破けた時には、晴れているのに長靴で小学校に通ったのを覚えています。そんな時代に、いつも満面の笑みでお菓子の入った袋を渡してくれたのが表のおばちゃんでした。表のおばちゃんはお寺で踊りを教えていました。歌も歌っていました。表のおばちゃんがお寺に来ると、お寺が明るくなりました。

表のおばちゃんが亡くなられてからも、夫のおじさんがお寺の行事に全て参加されてきました。毎月の護摩焚きにも休まずに参加されてきました。そのおじさんも93歳を過ぎたころからお寺には来られなくなりました。お寺は山の麓にありますので、長い坂を登らな



を子ども達にも話してくださり「戦争は勝っても負けてもいいことはない」と伝えてくださいました。

週2回ヘルパーの方が1時間程来られるのですが、後の自分の事は全て自分でされています。買物も銭湯も自転車に乗って行かれます。おじさんに「長寿の秘訣は何ですか？」と尋ねま

住職と坐禅会の皆さま。毎週日曜日の午前6時半から坐っています。



1月10日、二重塔の真上に月が。



2012年の思い出

したら「朝、味噌汁を作って食べるのかな」と話されていた。好物は南瓜と白菜だそうです。皆様も朝の味噌汁はいかがでしょう。

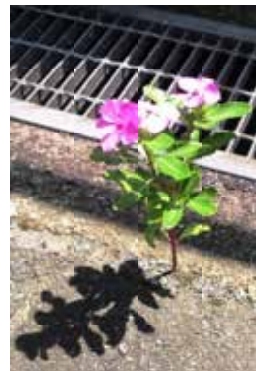
長島愛生園での3回目の桜植樹。



大護摩花まつり後の餅まきです。



アスファルトに咲く花に感動です。



大神神社の神輿かついでます。



アースデイ奈良「いのち栄える未来へ」でドンちゃんズと共演。



親子で朝鮮学校見学。月刊誌「イオ」1ページ目に掲載されました。



年間行事予定

【1月】1日 零時 修正会

成人の日正午 昼食

13時 初護摩会

【2月】3日 10時 星祭会

15日 7時 涅槃会

【3月】20日 14時 彼岸会

【4月】7日 10時 大護摩会

花祭り「ちごねり」募集

【7月】上旬 本山研修会

第二日曜日 作務の日

15日 盆参り

下旬 子供坐禅の集い

【8月】1日 9時半 最勝会

23日 13時 地藏会

【9月】23日 14時 彼岸会

【10月】下旬 梅花大会

【12月】1 8日 朝6時

摂心会

8日 6時半 成道会

上旬 歳末托鉢行

21日 14時 終護摩会

31日 23時 45分

除夜の鐘(一般参加可)

月間行事予定

1・15日 6時 祝朝課

4・29日 月仏参

18日 14時 梅花講

24日 14時 水子供養

28日 14時 護摩会

(1・2・12月は右記参照)

日曜日 6時半 坐禅会

みー子が行く⑦



毎朝、朝課の時に、みー子が履物をあたたためてくれています。感謝。

テレホン法話

曹洞宗布教師の「心の法話」が電話で聞けます。近畿内0120148740 近畿外0753514443

ご案内

お寺のホームページがあります。ぜひ、ご覧ください。
<http://www.byodoji.com/>

三輪山裏

師匠が出版する日までに皆様から来られ、当日には佐藤総代、野村先生ご夫妻が見送ってくださいました。ありがとうございます。師匠には、とにかく無理をせず、健康第一でつとめていただきたいと思います。東日本大震災、世界各地の災害に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

編集子 孝仁 合掌